

## 展示紹介 すばしっこい肉食恐竜 コンプソグナトス

1階「とやま時間のたび」の部屋に入って一番奥の右側の壁に、ガラスの展示ケースがあるのをご存じでしょうか？このなかにはコンプソグナトスという全長120cmの小型の恐竜の全身骨格が展示されています。この恐竜は中生代ジュラ紀後期（約1億5千万年前）のフランスの地層から発見されました。

### ■ 小さいけれど肉食

肉食恐竜というと展示室にあるティラノサウルスなどの大きな恐竜をイメージしますが、コンプソグナトスもティラノサウルスと同じ獣脚類という主に肉を食べていたと考えられるグループに属します。腰までの高さが約40cmととても小さいですが、アゴにはするどくとがった小さな歯がびっしりと並び、前足にはカーブしたするどい爪があり、肉食恐竜の特徴をそなえています。



コンプソグナトス



するどい歯をもつアゴ

### ■ すばやく走ることができた

後ろ足を見てください。体の大きさにくらべてとても長いですね。長い足はすばやく走ることができた証拠です。また体の半分以上をしめる細長い尾は体のバランスをとるのに使われていたと考えられています。ドイツから発見されたコンプソグナトスのお腹にはトカゲの化石がありました。すばしっこく逃げるトカゲや虫などをすばやく捕まえて食べていたと考えられています。

(2011年12月 藤田将人)